かさおか

発行所
天理教笠岡大教会
かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66−1311

あけまして おめでとう ございます

教祖120年祭を目指し、
道の後継者の育成を念頭に邁進しよう。

立教百六十五年の新春に当たり、新年のご挨拶を申し上げます。

明けましておめでとうございます。

昨年は大変ご苦労さまでした。創立百十周年に向かう三年千日と仕切っての歩みの仕上げの年として迎え、過去二年間実動の上に歩み切れた自信と誇りを持っての、仕上げの年にふさわしい実動の歩みでありました。

その甲斐あって、三つの実践項目を次々と達成して行き、記念祭にはその全てを達成した喜びと真柱様ご夫妻にお入り込み頂いた喜びとが相まって、喜びに満ちあふれた記念祭となる事が出来ました。改めて皆様方の一手一つの心寄せに御礼を申し上げます。

しかし考えてみれば、世上に於いての昨年は大変な年でした。政治も経済もますます混迷を深め、狂牛病、同時多発テロを発端とした戦争行為や炭素菌騒動。天皇家に愛子様がお誕生になられた事を除けば、心苦しくなるような事ばかりであったように思います。

日本はもとより世界中の人々が心痛めていたその中にあって、笠岡に繋がるお互いはにをいがけお助けに多少つらい思いをする事はあったかもしれませんが、その中に常に喜びを感じさせて頂く事が出来、喜びの記念祭をつとめる事が出来たという事は、正しく御守護であり、成人した姿であると思わせて頂きます。誠に有難い事であります。

この喜びを胸に今年から新たな塚に向かって歩み出させて頂きたいと思います。そしてその塚とは四年後に迎える教祖百二十年祭であります。

年頭に当たり、真柱様から教祖百二十年祭をつとめるとのご発表がありました。具体的にはこれから機会を追ってとの事ですが、私たちは昨年の記念祭に於いて、真柱様より「御恩報じ」と「末代の理」についてのお言葉があり、それに対して皆様を代表して御礼の言葉を述べると共に、「末代の理」を思案し『道の後継者の育成』に力注いで行く事の決意を申し上げさせて頂きましたので、教祖百二十年祭に向かう歩みは『道の後継者の育成』に主眼を於いて進めさせて頂きたいと思います。具体的には来年からとなりますが、今年一年はその事を心に留めつつ昨年同様「実動」に邁進して下さいますようお願い申し上げて新年に当たっての挨拶とさせて頂きます。

笠岡大教会長　上原理一

談話室

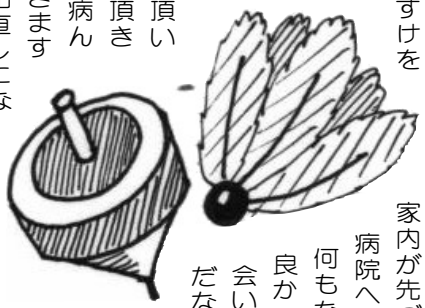
真の御恩報じを

平成十一年三月五日、信者宅の年祭をつとめに行こうと用意をしている時、父が倒れて体が動かないのでこれから救急車で病院へ行くと言う母の電話が入った。

年祭の事は他の方に頼み、入院先へ大急ぎで車を走らせ病室へ飛び込むと、親類のおば達も集まって来て下さっており、少し黒い顔をした父が「何で来た。」と言う様な目で私を見た。お医者様の見たてでは脳梗塞を起こして、体の自由が効かず、言葉もしゃべりにくく、このまゝ脳圧が上れば覚悟も必要との事でした。

この一大事にあたり、上級の会長様の「大丈夫だ。」と言って下さる親心と、つとめて下さった御願いづとめ、又毎朝、朝づとめの後通って下さった某先生のおさづけの理のお取次を頂いて、脳圧も上る事無く毎朝お取次ぎ頂く後毎に、倒れた翌朝には食べる事が出来、次の日には起上り、三日目には先生が帰られてすぐに、「立ってみる。」と言ってベッドの横に初めて立った父の姿を今でも覚えていますが、次々に不思議なおたすけを頂き、一週間ぐらい後には、珍らしい事だと、歩くところを病院からビデオに撮られ、一ヶ月後には、退院させて頂ける迄に良くならせて頂きました。

此度の父の身上を御真実よりお救け頂いた喜び嬉しさを何とか御恩返しさせて頂き度いと、届かぬ私の事乍、身上や心を病んでおられる方の家や病院へ運ばせて頂きますが、なかなか重たい方や残念ながらお出直しになる方、何とかと思いますが、申し訳ない事ばかりでお受取り頂ける心、お働き頂ける心を少しでも使う事だと言い聞かせ、まわらせて頂きます中に喜んで下さる方もあったりして、何とも言えない心になる時本当に有難いと感じます。しかしながら私みたいな者は形ばかりで運び先の方に真にたすかってもらう事が出来ませんが、今年も御指導頂きまして少しでも御恩報じの道に進ませて頂ける様励ませて頂きます・



大難を小難に

弥高山分教会長　岡﨑和夫

11月6日登校中の次男が交通事故に遭い、救急車で病院に運ばれたとの電話があり、うろたえる家内が先づ病院へ。私も取る物も取りあえず病院へかけつけると、医師より「検査では何もなく打ち身と軽い傷で、本当に運が良かったですね。」との説明有り。本人に会い状況を聞くと、よくこれだけで済んだなと、大難を小難にお連れ通り頂いた親神様教祖の御守護に御礼申し上げ、私自身を省みて、連日のひのきしんに不平不満の心があったのではないか、ひのきしんに来て下さる人に不平不満な気持をいだかせていたのでは……。させて頂く心、低い心、喜こび心でひのきしんに掛からせて頂こう。と思わせて頂いた矢先、夜明け前にリーフレット配りをして朝勤に日参して下さる婦人用木が、途中ころんでケガをされた。熱心な人なのにどうして、リーフレット配りという旬の御用をさせて頂いている時に、何故……。勇んだ心が萎えていく婦人用木。

相次いで見せられた事に、大教会創立百十周年という大きな旬を思案させて頂いた。ある朝勤の後、ケガをされた婦人用木に「右腕だけが自由に動かせなかったのに、左腕も動かせなくなりました。おさづけをして下さい。」とさえない顔で言われました。「今の旬はおさづけの取次ぎをさせて頂く旬と、大教会よりお打ち出し頂きます。両腕が自由にならないのはおさづけの取次ぎを待っている人がおられるのではないですか。おさづけを取次ぐ事が御守護頂ける一番の道ですよ。」等

とお話しさせて頂きました処、素直に聞き分けられ、婦人用木は大阪へおさづけ取次ぎにと運び、おぢばにお願い参拝もされて帰られた。翌日の朝勤にこられて笑顔一杯に「お陰で御守護頂きました。手が自由に動かせます。」「人救けて我身救かるとお教え頂く事を、旬の素晴らしさを体験させて頂き有難うございました。又、大阪におたすけに行ます。」と勇んで話され、共々に親神様教祖に御礼申し上げさせて頂く姿をお見せ頂きました。

〝旬にまかぬと芽は生えぬ〟とのお言葉。身上事情は道の華、勇み心と実動で実を結ぶともお教え頂きます。人は何もない時には成人は鈍く、色々見せられる事によって成人への道を促進して頂けるし、喜こび心、勇み心も大きなものとなると思わして頂きます。

この大きな旬にお見せ頂いた事は、より大きな成人をさせてやろう、より大きな徳をやろうとの親神様の大きなく親心と感じさせて頂く事が出来、大難は小難に小難は無難にとお連れ通り頂きました事、大教会創立百十周年記念祭を感動の中に終えさせて頂きましたが、今年が終る迄旬は続いているのだと気を引きしめて通らせて頂こうと思います。

母親がしっかりしないと国はほろびる

――母賢にして愚か成る子無し

興明分教会長　吉岡　壽

昨年の暮れ、教会のファックスに一通の便りが届いた。

それは私の尊敬している先生からの文面である。文章は、某新聞に載った記事のことだ。「みなさんのお役に立つような人になりんさい。えろう、ならんでもええんじゃ」。それが、亀井郁夫（長男）静香（二男）両国会議員を含む四人の子供を育て上げた母の口癖だった。平成十三年十二月中旬に亡くなった母・静枝さん八十九歳のことである。子供たちが「母親の寝ている姿を見た記憶がない」と口をそろえるほどの働きづめのひたむきな一生だったそうです。子供達二人の代議は東大出である。子供達が独立し、社会で認められるようになっても、静枝さんは、「うちは貧乏なんじゃ。貧乏なんじゃ」とつつましい生活を続けた。今の世にこんなお母さんがほしいものだ。ファックスを送って下さった先生は、日頃から私の心を読んでいらっしゃるのだ。

今一つは、元経団連会長・臨調会長をつとめた土光敏夫の母である。土光家の躾の最初は挨拶と返事であった。両親にも知人にもよく挨拶ができ、呼ばれると「はい」と大きな声で返事をするように躾けられた。

土光氏の母は自然を愛し、自然から学ばせた。具体的に言えば、同じ農作物の種子を播いても、早く芽を出すものもあれば、芽の出方の遅いものもある。遅いからといって、それは役に立たないから抜いて捨ててしまってはいけない。将来それがどんな立派なものに成長するかわからない。人間も同様である。小さい時期に勉強や遊びに遅れているからといって軽視してはいけない。大切に育てなければならない。

人間の貴さは思いやりの心の深さにある。自分が人にされたらいやだと思ったことを人にしてはいけない。それが思いやりである。

また土光家の躾の一つに「正直」ということがあった。人間はあくまでも正直でなければいけないということを教え込んでいた。その手本が父・土光菊次郎の正直さであった。

扨て、私は、朝起きも正直も働きも好きです。文に記した二つのお家（うち）の母親の姿が、行動が、後継者を世のため人のためになる人と創りあげたのです。年頭会議で大教会長様は、各自の信仰を掘り下げて、後継者の育成につとめようと申されました。父親はもちろんです。母親の力で陽気ぐら

十二月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎しんで申し上げます

親神様の一れつ子供かわいいの親心溢れる御守護とお導きのまに〳〵月日を重ね立教百六十四年の本年もあと十日を残すのみとなりました

日頃の御高恩に御礼申し上げつつ今年一年を振り返ってみますと四代真柱様の諭達第一号を受けて三年千日と仕切って歩み始めた笠岡創立百十周年記念祭に向けての歩みも三年目仕上げの年として迎え「一、おさづけの取り次ぎ」「二、陽気ぐらし講座と百万軒にをいがけ」「一、一万人のおぢばがえり」を実践項目として歩み出させて頂きました　一月の直轄大祭参拝二月三月には部内巡教重ねて五月の直轄巡教を通して笠岡に繋がる皆が心を一つに睦び合わせて年頭より勇んで歩ませて頂く事が出来ました　そして八月二十六日には二千人を超える人で祈願のおぢば帰りをさせて頂き感激の内にお願いづとめをつとめることも出来ました

十月の直轄大祭参拝でラストスパートをかけ実践項目達成の喜びの内に十一月二十九日真柱様ご夫妻にお入り込み頂いて平日に関わらず二千五百人余りの人々と共に盛大に創立百十周年記念祭をつとめさせて頂くことが出来ました　改めて親神様に御礼を申し上げます　誠に有難うございました

只今から今年一年賜った御守護の数々に御礼申し上げたく師走の慌ただしさも厭いませず寄り集いました道の子供達と相共におつとめ奉仕者一同喜び心と感謝の心一杯に陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめて十二月本年納めの月次祭を執り行わせて頂きます　皆の真実の状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

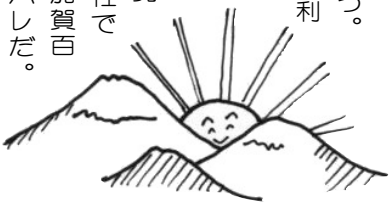
さて世上ではアメリカとタリバンの戦いがイスラエルとパレスチナにも飛び火しインドとパキスタンにも広がって世界戦争へと発展しかねない状況でございます　又日本経済も先行き不透明で連日マスコミが人々の不安をつのらせている有様でございます　そんな中だからこそ親神様の御守護を喜び感謝する事が大切との思いを強くし道に繋がるお互いは陽気ぐらし建設のよふぼくであるとの認識を高めて親神様の思召しを伝えるべくにをいがけおたすけにとたすけ一条に邁進させて頂く覚悟でございます

又記念祭での真柱様のお言葉にありました末代の理にも思いを致し教祖百二十年祭に向け道の後継者の育成にも全力で取り組んでいく所存でございます

何卒親神様には親と慕い親孝心一筋に歩む皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り陽気ぐらしへとお導き下さると共に心豊かな明るい年末年始になりますようお連れ通りの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

しの世界がすぐ其処までやってきます。道の後継者のうえに努力させて頂きます。今日を精一杯生きよう。

今こそＮＨＫ大河ドラマ「利家とまつ」をみましょう。何故か？　前田利家の妻・まつは内助の功にとどまらず教養豊かで、すべての才覚を持ち合せたたくましい女性である。この「まつ」がいて加賀百万石が築かれたのだ。アッパレだ。



表紙の絵・
本文中のカット

田中珠美さん

・上下分教会天領布教所よふぼく
・独学で始めた絵画の趣味を生かして、
地元上下商店街の活性化に貢献中!!

立教百六十四年

歳晩祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎しんで申し上げます

親神様の親心溢れる御守護とお導きのまに〳〵日々結構に恙なくお連れ通り頂く中に今年もあと数時間で暮れようとしております

思い返してみますと今年日本ではドタバタの首相交代劇に始まり金融破綻や大手スーパー等の倒産が相次ぎ世界では第三次世界大戦が始まるのではないかというような出来事が次々と起こる等人々の心がより暗くなるような事ばかりでした

その中笠岡に繋がる私共はたすけ一条の実動の達成はもとより創立百十周年記念祭の盛大な姿を御守護頂く等喜び一杯の一年を過ごさせて頂く事が出来ました事は誠に有難く勿体ない極みでございます　今年一年賜わりました御守護の数々に改めて御礼申し上げたいと存じまして只今から立教百六十四年の歳晩祭を執り行なわせて頂きます　御前に寄り集い同じ思いに伏し拝む皆の真実の姿を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます　そして来るべき立教百六十五年の年が今年一年の反省を基に一人一人や民族や国がお互いの主義主張を越え互い立て合い助け合い喜こび合える世の姿に一歩でも近づかせて頂ける一年になりますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

立教百六十五年

元旦祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎しんで申し上げます

親神様の御守護とお導きを頂戴してここに目出度く立教百六十五年の新年を迎えさせて頂きました　一同と共に心よりの御礼を込めて新年のご挨拶を申し上げます　明けましておめでとうございます

昨年お掛け下さった親心と御守護に御礼申し上げると共に今年一年も一列子供かわいいの変わらぬ親心と御守護お導きをお願い申し上げたいと存じまして只今から笠岡に直に繋がるよふぼく一同新年の慶び心も一入に心を一つに睦び合って明るく陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめて元旦祭を執り行なわせて頂きます　御前には寒さ厳しき中も厭いませず寿ぎ心を胸一杯に湛えて夜も明けきらぬ内から寄り集いましたよふぼく信者並びにこれからの道を担う子供達が共にお歌を唱和し同じ思いに伏し拝む状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて昨年の創立百十周年記念祭に於て真柱様よりたとえ人が変わり建物が変わっても教会設立当時の人々の思いを後に続く者が変わらず持ち続け又後へと伝えて行く事が理の栄えとなりひいては陽気ぐらし実現へと繋がって行く事をお示し下さいました　今世上は「欲にきりない泥水」に深く足を踏み入れ混迷を深めようとしております　そんな中だからこそ私利私欲を捨て親神様の思召と初代の思いを我が思いとして後に続く者へと伝えていく事の大切さを痛感しております　四年後には教祖百二十年祭を迎えます　それを目指し少しでも教祖にお喜こび頂けるよう外にも内にも目を向けにをいがけおたすけに励ませて頂いて道の後継者育成にと邁進させて頂く覚悟でございます

何卒親神様には年の始めに当っての皆の心定めの真実をお受け取り下さいまして万たすけの上に自由の御守護を賜わると共に至らぬ点は幾重にもお仕込み下さり成人へとお導き下さいましてお望み下さる陽気ぐらしの世の状に一歩でも近づける一年になりますよう一同と共に慎んでお願い申し上げます

教会別人づくり一覧表（立教164年1月1日より 立教164年12月31日まで）

名称	初	授	修	講前	講後
笠岡	10	3	1	2	
福山	2		2	1	
髙屋	5	1	1		
神邊	2				
島根	2	1	2	1	1
久松		4	1		
鶴山	2				
弥髙山	4		1		
陽備					
摩耶					
金浦	1				
興明	1				
ひろさと					
陶山	2	1			
芳井	1	1			
呉照					
海松ヶ岡	4	3	1		
東悠					
吸江	2	1			
照陽					
輝美濃	1	1	1		
新山邑					
呰部	1		1		
明石市					
上下	4	2		1	1
府中市	11				
東城					
服部	2				
島中		1			
驛家					
油木					
葦陽	1		1		
湯田原	1				
備中					
神昭	2				
美之郷					
錦備	1				
廣町	1	1			
福廣	2				
福勇	5			1	
福芦	4	1	1		
福満			1	1	
福岩	1	2			
西村			1	1	
福年	1				
引野		1	1	1	
福昭					
福春					

名称	初	授	修	講前	講後
福中	2	2		1	
福冨士					
福東	1		1		
東福山	2		1		
福南					
福順					
福節	1				
福備	1				
福輝	3	1	1		
坪生	2				
八尋	1				
深安					
笠尋	3	2	2		
芦品	2	2			
安那	1				
芦田川	1				
三郡		1			
芦常	1	2			
芦辺	1	2			
芦加茂		1	1		
惠陽	16	5			
陽實	1				
御野					
香地華					
真金	1				
仲條	2				
稲倉	9	5	2	1	
稲瀬	2	4	1		
稲富士	1	1	1		
稲讃	1	1	1		
門司港	1				
大惠山	4				
東水島	1				
高児島	2				
出雲		1	2		
瑞雲					
海潮川	1				
錦洋					
米府	2		1	1	
弓ヶ濱		1			
西伯			1		
米美					
伯仙			1		
照雲					
輝伯					
松都					
樺島					

名称	初	授	修	講前	講後
亀田山	5	5	3		
出雲川津	2				
天場山					
簸ノ川					
多古浦		2	2		
瑞北					
雲東		1			
神村					
呉中					
大江橋	1			2	
品治	2				
久福			1	1	1
久津					
呉福					
鶴南				1	1
鶴眞					
川島郷					
鴨方					
作備	1				
輝華					
錦ヶ原					
行滕					
眞府			1		
吉舎					
清嶽					
上小畠	3		1		
木津和					
國須	3			1	
上吉野	1		1		
上備					
河佐					
上川邊					
甲井	1				
上父	3				
阿木行					
宇津戸	1		1		
河面	1				
府鮮		1			
府庄					
府世原	3				
神驛					
神免		2			
葦沼	1	1			
合計	170	67	42	17	4

立教165年　定期巡教表

教会名	巡教月日	巡教員	教会名	巡教月日	巡教員	教会名	巡教月日	巡教員
廣町	2月13日	佐藤道孝	御野	2月8日	岡崎輝夫	大江橋	3月5日	岡崎輝夫
福廣	2月7日	大教会奥様	香地華	2月9日	吉岡壽	品治	2月7日	大教会長様
福勇	2月11日	大教会長様	真金	2月11日	大教会前奥様	久福	2月8日	佐藤道孝
福芦	3月9日	大教会奥様	仲條	2月8日	大教会長様	呉福	2月5日	上原繁道
福満	2月8日	河原節喜	稲倉	3月13日	佐藤道孝	久津	3月9日	岡本久善
福岩	3月12日	岡本久善	稲瀬	3月5日	大教会奥様	鶴南	3月8日	河原節喜
西村	2月10日	吉岡壽	稲富士	2月15日	中村剛	鶴眞	3月10日	吉岡壽
福年	2月7日	上原繁道	稲讃	3月10日	大教会奥様	川島郷	3月10日	大教会前奥様
引野	2月6日	武内清	門司港	2月12日	吉岡壽	鴨方	2月6日	門脇誠教
福昭	3月11日	岡崎輝夫	大惠山	2月12日	岡本久善	作備	2月6日	佐藤道孝
福春	2月5日	大教会前奥様	東水島	2月10日	中村剛	輝華	2月13日	武内清
福中	3月12日	岡崎輝夫	高児島	3月5日	大教会長様	錦ヶ原	2月3日	中村剛
福富士	2月10日	大教会長様	出雲	3月11日	中村邦義	行縢	3月11日	武内清
福東	2月9日	武内清	瑞雲	3月6日	中村剛	眞府	2月9日	中村剛
東福山	3月6日	佐藤道孝	海潮川	3月8日	吉岡壽	吉舎	3月4日	大教会奥様
福南	3月13日	大教会奥様	錦洋	3月14日	岡本久善	清嶽	3月5日	中村邦義
福順	2月11日	武内清	米府	3月15日	岡本久善	上小畠	3月10日	岡崎輝夫
福節	3月8日	武内清	弓ヶ濱	3月8日	上原繁道	木津和	3月6日	上原繁道
福備	2月3日	大教会奥様	西伯	3月9日	上原繁道	國須	3月7日	大教会奥様
福輝	3月13日	吉岡壽	米美	3月5日	中村剛	上吉野	3月12日	佐藤道孝
坪生	2月5日	吉岡壽	伯仙	3月10日	大教会長様	上備	3月8日	中村剛
八尋	3月10日	中村剛	照雲	3月6日	吉岡壽	河佐	3月4日	上原繁道
深安	3月6日	田中一之	輝伯	3月3日	武内清	上川邊	2月12日	上原繁道
笠尋	2月3日	佐藤道孝	松都	3月7日	吉岡壽	甲井	3月6日	武内清
芦品	2月13日	吉岡壽	樺島	5月3日	上原繁道	上父	3月7日	田中一之
安那	2月8日	岡本久善	亀田山	3月12日	河原節喜	阿木行	3月2日	岡本久善
芦田川	2月3日	岡本久善	出雲川津	3月10日	上原繁道	宇津戸	3月5日	佐藤道孝
三郡	3月10日	佐藤道孝	天場山	3月8日	大教会長様	河面	2月8日	大教会奥様
芦常	2月5日	中村剛	簸ノ川	3月10日	中村邦義	府鮮	3月13日	大教会前奥様
芦辺	2月9日	岡崎輝夫	多古浦	3月13日	河原節喜	府世原	3月12日	大教会長様
芦加茂	2月6日	岡本久善	瑞北	3月9日	大教会長様	神驛	2月5日	門脇誠教
惠陽	2月14日	佐藤道孝	雲東	3月11日	河原節喜	神免	3月8日	岡本久善
陽實	2月12日	大教会奥様	呉中	2月8日	武内清	葦沼	2月7日	河原節喜

第７３１期修養科募集要項

＊修養科期間

立教１６５年３月１日～５月２７日

＊教　養　掛

３ヶ月間　岡　﨑　和　夫　（大教会役員・弥高山分教会長）
１ヶ月目　田　渕　光　明　（上　備　分教会長）
２ヶ月目　猪　原　啓　介　（門司港分教会長）
３ヶ月目　本　多　一　男　（西　伯　分教会長）

＊募集要項

・志願者は、３月末日現在で満１７歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を経由して大教会に順序参拝すること。
・２月２５日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
・３ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、５月２９日の昼食後に解散。

＊教　科　書（必須）

『おふでさき』、『みかぐらうた』、『天理教教典』、『稿本天理教教祖伝』、『よふぼく手帳』。

＊参　考　書（出来れば持参）

『おてふり概要』、『なりもの練習譜』（笛・打楽器または三曲）、『おやしき・史跡案内』。

＊携　行　品

おつとめの扇、筆記用具、認印、笛（男鳴物の講義で笛と小鼓の内、笛を選択する人のみ）。

＊服　　装

ハッピ及び帯・バンド、長ズボン（又は、それに類するもの）、靴。

書　　類	大教会	詰所	備　　考
「順序参拝票」	○	○	
「別　席　願」	○	○	・「初席願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後に初席を運ぶ者のみ。 ・願書に日付を入れない事。 ・おさづけの理拝戴願の順序参拝も合せて行なう。 ・「別席の誓いの言葉」は別席の誓いの日までに覚えること。
「席　　札」		○	
「別席のしおり」	○	○	
大教会　御供	○		
本　部　御供		○	
「おさづけの理拝戴願」	○	○	・「おさづけの理拝戴願」の順序参拝がまだの者のみ。 ・願書に日付を入れない事。
「おはなし」	○		
大教会　御供	○		
本　部　御供		○	
「修養科入学願」		○	・御供は任意であるが、慣例により、２００円以上。
「修養科入学事由書」		○	
修養科入学御供	○		
「住民票」または「戸籍抄本」		○	・「戸籍記載事項証明書」、「身分証明書」でもよい。

春の学生おぢばがえり

【主　旨】　道につながる学生が、一人でも多くの友とおぢばに帰り集い、真柱様のお言葉を心に治め、今後の成人を誓い合う。

【テーマ】　友とおぢばへ　―あふれる喜びを胸に―

【期　日】　３月２８日(木)

【内　容】

◆式　典	午前９時　本部中庭 「真柱様お言葉」
◆直属アワー	午前１１時
◆別　席	正午より受付
◆後夜祭『春まつり』	夕つとめ後 東西泉水プール前広場

【参加対象】　高校生、大学生、短大生、大学院生、専門学校生など

＊教区ごとに団参計画を立てておりますので、詳細は、所属の教区・支部にお尋ねください。

チョ・ちょ・一寸の話し

立教百六十五年の新春を迎えてこう思った。昨年は「同時多発」と言う空恐ろしい事件で戦争が始まって、いまだに終極が見えない。「聖域無き改革」を歌って、企業を淘汰する行政は「金脈の道路」を袖の下に隠して銀行の尻拭いを国民に押し付けた「五右衛門の釜」である。正に「今さえ良くば、我さえ良くば」であった終末の姿であると言えますね。

真柱様は「この世は、全て、親神様の深き親心の御支配のもとにある真実を思案し、人間心のみに流れがちな世情の歩みの中にあって慎みが理、慎みが往還との教えに己を正し互いに心を通わせ、たすけ合うて陽気ぐらし建設の道に励むのだ」と祭文で御促し下されて居られます。

ここ数年にわたり四百万軒以上の配布を経験した事も、全世界では十六億人となれば、地域だけでは途方も無い様に思われます。でもそれを実践しながら推し進めない事には届かないのである訳です。だから日曜参拝を計画し皆でやろう、続けようと思ったので有ります、その事を。